

平成30年12月25日開催

教育委員会会議録

福知山市教育委員会

- 1 開会の日時 平成30年12月25日(火)
午後1時30分
- 2 閉会の日時 平成30年12月25日(火)
午後1時49分
- 3 招集の場所 ハピネスふくちやま(第1会議室)
- 4 出席委員の氏名 端野 学
倉橋 徳彦
塩見 佳扶子
和田 大顕
大槻 豊子
- 5 福知山市教育委員会会議規則第4条により列席したもの
教育部長 田中 悟
教育委員会事務局理事 森山 真
次長兼教育総務課長 藤田 一樹
教育総務課担当課長 貴田 直子
次長兼学校教育課長 小田 浩二
学校教育課担当課長兼教育総務課 山田 珠美
学校教育課担当課長 土家 邦子
学校教育課総括指導主事 井上 雅道
学校給食センター所長 外賀 眞二
次長兼生涯学習課長 崎山 正人
中央公民館長 佐々木 和美
図書館長 浅田 久子
福祉保健部子ども政策室担当次長 横山 尚子
- 6 福知山市教育委員会会議規則第15条による会議録作成者
次長兼教育総務課長 藤田 一樹

7 議事及び議題

別添のとおり

8 質問討議の概要

別紙会議録のとおり

9 決議事項

なし

福知山市教育委員会会議規則第15条により署名する者

福知山市教育委員会 教育長.....

福知山市教育委員会 委 員

福知山市教育委員会 委 員

福知山市教育委員会 委 員

福知山市教育委員会 委 員

教育委員会会議録調製者 教育部長.....

教育委員会会議録

1 開会

端野教育長が開会を宣告。

端野教育長 次に、現在のところはありませんが、傍聴人から傍聴の申請がありましたら許可をしてもよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

端野教育長 許可をさせていただきます。

2 前回会議録の承認

端野教育長 前回の会議録については、異議ありませんでしょうか。

全委員 異議なし。

端野教育長 それでは、異議がなければ承認をお願いします。
あとで会議録に署名をお願いしたいと思います。

3 教育長報告の要旨

端野教育長から以下の報告がありました。

(1) 12月市議会一般質問について

ア 12月12日(水)

(ア) 吉見 茂久 議員

「医療的ケアが必要な子どもへの支援は どう」

・心身に障害のある児童生徒の就学先を決定していくための仕組みとして、福知山市教育支援委員会を設置している。具体的には実態に合わせた就学を図るため、子どもの学びの様子を観察し、園や学校、保護者と相談し、本人にとって望ましい指導や支援が受けられる就学先について保護者へ示している。

そして教育委員会の見解を受けて障害の状態に応じた学びの場を保護者が選択し、市立学校の通常学級、特別支援学級、または特別支援学校への就学につなげている。今後も合理的配慮の下に、学習環境の整備に努める。

(イ) 高宮 辰郎 議員

「市立図書館の管理運営とサービスの充実について」

a 市立図書館の管理運営について

「オープン4年目になるが、評価、開館日数等は」

・4年目を迎える6月12日には来館者が100万人に到達するなど、好評を得ている。市外からの来館者も多く、駅直近の利便性から、旧館と比較し高校生の来館が大幅に増加している。開館日数は29年度実績で中央館は303日、分館は292日である。

開館時間は、中央館は平日が午前10時から午後8時、土日祝日は午前10時から午後6時までとしており、分館はいずれも午前10時開館、午後6時閉館としている。

視聴覚資料等を含めて総資料数は中央館と3分館の合計で、平成29年度末で30万1,012点であり、うち中央館は21万9,102点である。

- ・職員数は中央館と分館合わせて36名、うち司書は9名である。
- ・資料費、人件費含めて、管理運営経費は約1億4,900万円、うち分館は約2,500万円である。

「図書館サービスのあり方について」

- ・レファレンスサービスについては、中央館でレファレンス専用カウンターを設置し、日々さまざまな質問に対応している。
- ・利用者の「知りたい、調べたい」要求に的確に対応できるよう職員も研修している。
- ・児童、青少年へのサービスについては、第2次福知山市子どもの読書活動推進計画に基づき、ボランティアと連携してお話会の充実や図書の展示、おすすめ本リストの作成・配布など、本や読書に興味を持てるよう、きっかけづくりに力を入れている。
- ・障害者、高齢者へは大活字本の充実、対面読書サービス、バリアフリー映画の上映会など取り組んでおり、現在も障害者週間に合わせてバリアフリー資料やサービスを知っていただくための特集展示をしている。

「7月豪雨で被災した大江分館は、現在大江町総合会館2階で仮開館しているが、正式なオープン時期や内容は」

- ・浸水被害を教訓に、今後は図書館大江分館を大江町総合会館の2階で本格運営をしていくことを考えている。

具体的には、図書館を2階の視聴覚室に移転し、来年の4月1日オープンとしたい。新たな分館では、書棚の高さを低くし、利用者が使いやすいようにレイアウトしたい。

蔵書数は建物の積載重量の関係から減る見込みであるが、利用者のニーズにこたえられるよう図書の配架を工夫する。なお、視聴覚室は1階の今の分館の部屋に移転し、これまでどおり視聴覚室の機能を維持する。

「新たに設置される小中一貫校との連携は」

- ・現在も見学などで図書館を活用していただいている。地域に根差した図書館として相互連携を進めていく必要がある。

「知る・学ぶ」地域の情報拠点としての図書館をもっと活用していただけるよう、待つだけでなく学校に出向き、図書館を知ってもらう取り組み、具体的には図書館職員による出張の読み聞かせやブックトークなども検討したい。

また、学校司書やボランティアと連携し、団体貸し出しを活用した資料提供などの取り組みができるよう働きかけていきたい。

「指定管理者制度の導入についての見解は」

- ・指定管理者制度の導入については、新中央館会館の際にも検討されたが、直営での運営になった経過がある。

現在はサービス充実に向けて関係部署、機関が連携して図書館の多様な可能性を見据えてさまざまな取り組みを進めている。

現在のところ、指定管理者制度を導入する予定はない。ただ、指定管理者制度も含め、管理運営については常に検証が必要であると考えている。

(ウ) 中嶋 守 議員

「学校跡地活用について地域活性化の観点から問う」

「統廃合により閉校した学校数は」

- ・3町との合併前に、金山小学校と北陵中学校の2校、平成18年の1市3町合併後は、全て小学校で（精華、育英、明正、三岳、川合、上六人部、中六人部）合わせて9校である。

「今後の統廃合による閉校の見通しは」

- ・平成31年4月の三和地域の小中一貫教育校「三和学園」の開校に伴い、今

年度末には菟原小学校と細見小学校が閉校となる。

また、大江地域では平成33年4月に小中一貫教育校の開校を予定し、準備委員会での取り組みを進めており、美河小学校、美鈴小学校、有仁小学校が閉校となる見込みである。

なお、教育改革推進プログラムでは、他にも複式学級解消の観点から、再編の対象校として上がっている小学校がある。

「今後さらに閉校がふえる中で、学校跡地についてどのように管理しているか。また、管理上や今後の活用にかかって課題はあるか。」

- ・閉校後の学校施設は、行政財産から普通財産に変更した上で、施工管理については、引き続き教育委員会で行っている。

- ・閉校しても、地域行事や体育館使用があり、電気・水道料金の支出や施設の維持管理に必要な法令に基づく法定点検等を行っている。

他にも草刈や樹木の伐採等も含めると、29年度実績で、閉校した学校一校当たり平均約106万円の維持管理費が必要となっている。

- ・また、登記上の整理ができていないところもあり、跡地活用の前提となる用地の整理が必要となるが、土地の寄附や譲渡等から相当の年数が経過しており、その整理のためには多くの時間と費用が必要になっている。

イ 12月13日(木)

(ア) 紀氏 百合子 議員

「市のホームページで検索すると、公共施設の案内やハザードマップに書かれている避難所などが不統一であるが、それはなぜか。」

- ・夜久野の公民館は、市町の合併以後、移行措置として、夜久野ふれあいプラザに設置している夜久野地域公民館の他に、上夜久野・中夜久野・下夜久野地域公民館も設置していた。平成23年に夜久野地域公民館1館にした際に、閉館した3館のホームページの情報が削除できていなかったものである。

ウ 12月14日(金)

(ア) 藤田 守 議員

「旧中六人部小学校の跡地活用について」

「中六人部小学校の跡地活用について、閉校から現在までの検討状況は」

- ・公共施設マネジメント実施計画に基づいて、まず地域の皆さんとともに検討することとしている。

中六人部地区についても、中六人部自治協議会会長名で、本年8月16日付で市長宛に「中六人部小学校跡地活用に係る要望書」をいただいている要望内容は、跡地については、地域活力の回復に寄与する農業・観光・産業振興に資する施設として活用を図り、体験型の事業展開が行われること等が挙げられている。

このような地域の意向を踏まえ、跡地活用方法について民間事業者から広く意見や提案を求め、対話を通じて実現化を図るサウンディング型市場調査を本年9月27日から10月15日までの日程で実施した。

今後、活用の可能性等を確認の上、実現可能な利活用方法の見込みが立てば、改めて活用案、公募要領を定め、広く事業者の公募を行っていくことになる。

「サウンディング型市場調査の取り組み状況や跡地活用に係る取り組み状況は」

- ・サウンディング型市場調査の結果、1社から活用のアイデアが寄せられた。

実現可能なものにするために、より具体的な条件や施設設備等に関して解決すべき法的な規制の整理に向けた対話を現在行っている。

また、学校用地が地域の協力の下、整備されてきた経過の中で、学校敷地内に個人名義の土地が存在しており、現在その整理を行っている。

(イ) 田淵 裕二 議員

「学校の働き方改革について」

「現状と課題、対策」

・学校の抱える課題は大変複雑化、多様化している中で、教職員は多くの業務をしなければならない。超過勤務を縮減し、児童生徒に向き合う時間の確保、教育の質の向上を図ることは喫緊の課題である。京都府教育委員会も教職員の働き方改革実行計画を策定し、本市においてもこの計画を踏まえながら、教職員の業務負担軽減に向けた取り組みを行っている。

具体的には、本年4月から週1日は午後6時までに退勤する「早退勤デー」を、部活動を週2日以上休止する「ノー部活デー」を、全市立小中学校で本格実施した。

また、9月から全市立学校において、ICカードによる教職員の出退勤時刻記録システムを導入し、勤務時間の正確な把握に努めている。

さらに、こうした取り組みの検証や新たな方策を検討するために、教職員や教育委員会事務局で構成する教職員の勤務実態に関する検討会を開催し、取り組み方策の検討を行っている。今後も教職員の意識改革や学校業務の改善など、総合的な観点から教職員の長時間勤務の縮減に努めたい。

「勤務時間の現状」

・29年度の長時間勤務の状況は、570人の教職員のうち、月に60時間以上の時間外勤務のあった人数は、全体で実人数189人(33.2%)のうち80時間以上100時間未満は実人数68人(11.9%)、100時間以上は実人数34人(6.0%)であった。

「勤務時間に影響を及ぼす多様な業務は」

・児童生徒に直接かかわる業務、また学校運営にかかわる業務、その他に保護者対応や地域対応などさまざまな業務があり、教職員は多忙をきわめている。

「負担の多い業務は」

・府の教育委員会が行った調査結果によると、負担の多い業務として、「国や教育委員会からの調査への回答」「研究会への事前レポートや報告書の作成」「児童生徒の問題行動や不登校の対応」「保護者や地域からの要望へのサポート」などである。

「地域と連携した登下校の見守り安全指導などについて」

・特に小学校では、地域の見守り隊と連携し、教職員も一緒になって安全指導を行っている。

「学内業務と持ち帰り業務の現状は」

・校務については、校内で行うことを基本として、学校全体での業務の効率化を図り、勤務時間内で対応するよう努めている。しかし、教職員の家庭状況や体調の理由により、自宅での教材研究や授業準備の一部を行っている場合もある。

「教員以外の外部人材の活用について配置の現状は」

・児童生徒の基本的な生活習慣を確立させ、学習習慣の定着を図るため、「まなび・生活アドバイザー」を中学校3校、小学校3校に配置している。

また、スクールカウンセラーを9中学校、3小学校に10人が京都府非常勤職員として配置されている。

不登校の予防対策として、「訪問指導員」を小学校5校に、「心の居場所サポーター」を中学校2校と小学校1校に配置し、別室登校している児童生徒へのサポート対応している。

「スクール・サポート・支援スタッフの配置の現状は」

・学習障害等の課題のある児童生徒や日本語が理解できない児童生徒へのサポ

ートとして、「スクールサポーター」を配置している。平成30年11月時点で、23校に42人の配置をしている。

「中学校の部活動への外部指導員の活用配置の現状は」

・本市では本年度から、教職員の負担軽減を目的として、単独で大会や練習試合の引率、指導など顧問と同等の役割を担える「外部指導員制度」を導入し、現在野球部の指導に1名配置している。年間385時間、1か月35時間の計画で指導してもらっている。

「PTA活動や地域活動とのかかわりの現状は」

・児童生徒の成長を支えていくためには、PTA活動や地域のさまざまな活動と学校が連携を図ることは極めて重要である。

例えば、PTAの資源回収や美化作業、教育講演会には教職員も積極的にかわり、協働の取り組みを進めている。

また、地域でのイベントや講演会、各種会議などにも参加し、地域との連携を進めている。こうした連携を進める上でも、保護者や地域の方々に教職員の働き方改革への御理解を深めていただき、地域・家庭・学校の役割を明確にしていくことが大切であると考えます。

「教職員ストレス分析と過労対策について」

・本市には50人以上の教職員を有する学校はないため、ストレスチェックの義務づけはないが、月80時間以上の時間外勤務が継続している教職員やメンタル面での相談を必要とする教職員は、医師等の面接を受けて、「疲労蓄積チェックリスト」により心身の状況を確認し、今後の働き方や健康管理に役立てている。

「学校機材のインフラ整備の進捗について」

・学校の機器類は、学校規模に応じて配備しており、予算配分により各学校は計画的に必要な備品を購入している。

「学習指導要領の円滑な実施に向けた環境整備の進捗について」

・学校施設で使用する教職員へのパソコン配備は、1人1台を確保している。

また、電子黒板、プリンター、タブレット、プロジェクター等の備品も、各学校の予算の範囲で計画的に購入している。働き方改革の観点から、教職員の負担軽減が図られるよう、今後も継続して配備をしたい。

「学校における働き方改革の実現に向けた教育委員会の考えは」

・学習指導要領の着実な実施を図り、学校が抱える諸課題に対応していくためには、教職員の業務負担軽減は喫緊の課題である。

教職員の働き方改革を進めることで、教職員自身の心身の健康保持はもとより、教職員の日々の生活の質や人間性を高め、教職員の人材育成につなげていくことが大切である。

このことが児童生徒に十分向き合い、総合的な指導を行うことにより、教育の質の向上につながるものと考え、今後も教職員の働き方改革を着実に進めたい。

「市民交流プラザふくちやまの運営について」

「利用者数について」

・29年度の「市民交流プラザふくちやま」の利用者数は44万731人である。

「利用者が多く、会議室が利用できないという苦情がある。対応は」

・利用の希望に添えない場合は、他の日にちの空き状況や、ハピネスふくちやま等の他の施設を御案内している。今後も丁寧な対応をしたい。

「駐車施設が、満車状態が続く場合の対応は」

・市民交流プラザふくちやまの駐車可能台数は94台である。行事や図書館利

用者の多い場合は一時的に満車となる。

多くの参加者のある行事については、主催者において公共交通の利用や相乗りでの来館、近隣の民間の駐車スペースの利用も案内していただくようお願いしていきたい。

「外観の汚れや破損箇所が目立ち始め、その点検・修繕は」

・施設管理委託業務の中で定期的に行っている。修繕については、予算の範囲内で優先順位を決めて実施している。今後も福知山市の玄関口に位置する施設として十分に配慮していく。

「市民交流プラザふくちやまの収支と採算性は」

・平成29年度の運営に関する決算額は、歳入1,862万1,212円、歳出は5,491万9,649円。

(ウ) 桐村 一彦 議員

「小中学校における諸課題について」

「市立学校教育改革推進プログラムの状況は」

・平成23年から32年までの10年間の取り組み期間で、教育内容の充実と学校統廃合による市立学校再編を進めている。学校統廃合の状況は、精華、育英、明正を夜久野小学校に、三岳、川合、上六人部、中六人部の4小学校がそれぞれ近隣の小学校に統合した。

今後は、三和地域で、菟原、細見が三和小学校として平成31年4月に開校し、大江地域では、3小学校を統合し、新たな小学校を平成33年4月に開校予定である。

三和、大江では、夜久野と同様に、施設一体型小中一貫教育校とすることとしている。その他、複式学級を有する過小規模校において、学校統合についての協議をPTAや学校、地域を中心に進めていただいております。教育委員会としても引き続き連携し、取り組みを進めたい。

「子どもの貧困問題への対応は」

・本市教育委員会は、保護者の経済状況を含め、子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されることなく、子どもの自己実現力を育成することを目指している。そのためには家庭の教育力と学力が必要であり、すでに顕在化している子どもの困難の改善に向けた取り組みを強化し、困難を抱える子どもと家庭をもれ落ちることなく支援していく必要がある。

「不登校の現状は」

・文部科学省の定義に基づいた本市の不登校児童生徒数は、平成29年度において、小学生26人、中学生49人であり、平成27、28年度と比較すると増加傾向にある。

「市立学校教育改革推進プログラムを進める上での問題点は」

・学校統合への合意形成は容易ではなく、御理解いただくまでには一定の時間を要する。少しでも早く学校を統廃合してほしいという切実な声がある中、保護者や地域等の合意形成に時間を要している点は課題である。

「保護者の思いや意見の収集は」

・統合を進める際には、地域の方々に説明会を開催し、御理解と御協力をお願いしてきた。PTAの意見については、アンケート調査や話し合いで集約されており、そこで出された意見については、教育委員会も把握している。今後も保護者や地域の思いを十分に受けとめ、市立学校教育改革推進プログラムの推進に努める。

「貧困問題の家庭との連携は」

・児童生徒の学習支援を行ったり、保護者の教育相談に応じるなど、教員が家庭訪問を丁寧に行っている。

「貧困問題の対策は」

- ・困難の早期発見、効果的な学力定着、自己肯定感や自己有用感の醸成など、多様な学びを提供すること、保護者への支援も必要である。

「不登校の原因は」

- ・一人一人異なるが、学習や人間関係のつまずき、家庭や地域社会での不適応などさまざまである。一旦、不登校になると学校復帰が困難なため、未然防止の施策が重要である。

「不登校の対策は」

- ・全ての子どもの学ぶ権利を保障し、希望進路の実現のためには学習支援が大変重要である。本市教育委員会では、登校支援と家庭訪問指導のために訪問指導員を5小学校に配置している。また、別室登校している児童生徒へのサポートのために、心の居場所サポーターを2中学校、1小学校に配置している。

さらに適応指導教室「けやき広場」を設置し、学校復帰に向けた学習支援や教育相談をしている。少人数での集団生活や個別指導により自信をつけ、昨年度通級していた中学3年生は100%希望進路を実現した。

12月議会が3日間あり、議員さんから質問がありました。たくさんありますので、読み上げませんが、12日に、吉見議員から医療的ケアが必要な子どもの支援、支援委員会の内容について、高宮議員から図書館の管理運営サービス等について、中嶋議員から学校跡地活用について地域活性化の観点からという質問がありました。

13日に、紀氏議員から市のホームページに古い情報が載っていることについての質問がありました。

14日に、藤田議員から旧中六人部小学校の跡地活用にかかわる状況について、田淵議員から学校の働き方改革について、現状と課題、今後の取り組みについて、市民交流プラザふくちやまの運営について、桐村議員から小中学校における諸課題について、市立学校教育改革推進プログラムの進捗状況、不登校の現状等について質問がありました。

特徴的な部分としては、特にはありませんが、非常に細かな部分についても質問があり、数字等が出る内容になりました。

(2) 全国中学生人権作文コンテスト京都大会（別紙）

○京都府人権擁護委員連合会長賞

題 「個性を」自信に 福知山市立南陵中学校3年 廣瀬蓮華さん

過日、福知山の人権擁護委員さんと会長さんが見えまして、本年度は、5点出したところ、5点とも入賞したという報告を受けました。別紙に作文を載せておりますが、南陵中学校の廣瀬さんの「個性を」自信に という作文が非常に優秀であったということです。福知山協議会ということで、福知山、綾部エリアになりますが、南陵中学校、成和中学校、京都共栄学園中学校、綾部中学校、福知山高等学校附属中学校の5名の作文が入賞し、南陵中学校が学校賞を受賞したということでした。

(3) 福知山市立中学校生徒の作文（12月5日 京都新聞 掲載文）

「学校統廃合で図書室充実」 福知山市立中学生

先日、市立図書館へ職場体験に行った。その中で移動図書館の見学をさせていただいた。移動図書館の役割は、蔵書数の少ない学校に通う子どもたちに、たくさんの本を届けることだ。全校児童数が少ないと図書室の規模も小さくなるそうだ。

私の住む福知山市では、小学校の統廃合が進められている。児童数の増加によって図書室が充実するのは、学校統廃合のメリットである。本との出会いは子どもたちの成長には必要だ。いつでも本を読める環境が望ましい。子どもた

ちにとって、学校の図書室こそ最適な環境だ。統廃合される学校の新たな図書室に期待したい。

2点目に同じく作文ですが、12月5日の京都新聞を見ておりましたら、学校統廃合で図書室充実という市立学校の中学生の作文が出ていました。学校統合になれば図書室も充実するだろうという作文でした。

(4) 図書館に図書の寄贈

○国際ソロプチミスト福知山 様 11月27日(火)

小学生に人気の恐竜の本などの児童書や絵本 27点

※平成3年から毎年連続で28回目

○日吉ヶ丘 絆の会(8名) 様 12月11日(火)

お話会に使用する大型絵本や赤ちゃん絵本

※毎月の自治会内での資源回収による収益金より

図書館に図書の寄贈が、11月と12月に2件ありました。

11月27日に、国際ソロプチミスト様から、5万円相当、27点の寄贈を受けました。今回が28回目ということです。

12月11日に、日吉ヶ丘自治会 絆の会様から山田自治会長様がお見えになり、12万円相当、大型の色鮮やかなお話の本等をいただきました。

(5) 惇明小学校 麻生博幸教諭 文部科学大臣 優秀教職員表彰受賞

惇明小学校の麻生博幸教諭が、文部科学大臣の優秀教職員表彰を受賞します。

期日は1月15日午後、東京大学安田講堂内で、表彰を受けます。記念講演もあり、青山学院大学の駅伝の原監督の話聞くということです。1月7日公表になっておりますので、それまでは伏せておいていただくということをお願いします。

以上5点報告しましたが、御質問、御意見はありませんか。

全委員 特になし。

端野教育長 本日は決議事項がありませんので、報告・説明事項の教育長決裁による後援承認事項について説明をお願いします。

4 教育委員会 報告・説明事項

(1) 教育長決裁による後援承認事項について

由里教育総務課長補佐兼企画管理係長 ～資料に基づき報告～

No.65 第48回京都新聞「お話を絵にする」コンクール 作品展

No.66 みわ子育て講演会「運動好きな子どもは家庭から育つ 親子ふれあい運動遊び～体だけじゃない！心も脳もぐんぐん伸びる～」

No.67 第10回福知山市「未成年の主張」弁論大会

No.68 第3回小学生五色百人一首福知山大会 中・高校生五色百人一首福知山大会

No.69 第34回酒呑童子盃争奪柔道大会

No.70 第28回文協フェスティバル

No.71 第18回大江山鬼っ子マラソン大会

端野教育長 後援承認について御質問や御意見がありましたらお願いします。

全委員 特になし。

端野教育長 承認いただいているということで、事後承認とさせていただきます。

それでは、次の報告事項をお願いします。

(2) 平成31年福知山市成人式についてについて
崎山次長兼生涯学習課長 ～資料に基づき説明～

会議案26ページを御覧ください。

平成31年成人式開催要項ということで、日時は1月13日日曜日午後1時30分受け付け開始、午後2時から開式ということで、1時間程度の式を予定しております。特に、例年と大きく変わることはございません。

会場は、三段池公園総合体育館メインアリーナです。

式次第は、オープニングとして、府立工業高校吹奏楽部に演奏いただき、市歌斉唱、福知山市出身で公立大学生の森田さんと京都市内の大学へ行っておられる谷口さんに、新成人代表者として市民憲章を朗読いただきます。

つぎに、市長の式辞、京都府知事さんと市議会議長のお二人から祝辞をいただきます。現在、調整中ですが、本田衆議院議員さんが、代理ですけれども、出席されるかもしれないということですので、おみえになった場合は、来賓としてメッセージをいただくことになるかもしれませんので、御了承ください。

新成人の主張は、自衛隊の高橋さんと福知山市出身の大学生の嵐さんに、新成人代表者としてお世話になります。

閉会挨拶は、教育長にお世話になります。

新成人対象者は796人で、昨年度が798人でしたので、ほとんど差はありません。昨年度の出席率が83.6%で、667人の出席をいただいておりますので、本年度も同様に85%前後として、650人を超える新成人がおみえになると思っております。

それに伴いまして、保護者もたくさんおみえになるかと思っております。ボランティアとして、例年どおり高校生に会場運営をお世話になります。

服装につきましては、ここ数年は略礼服でお世話になってきたかと思っておりますので、それで統一させていただきたいと思っております。

以上、平成31年福知山市成人式について説明させていただきました。よろしく願いいたします。

端野教育長 このことについて御質問はありませんか。

全委員 特になし。

端野教育長 それでは、次の報告事項をお願いします。

(3) 平成31年度福知山市立幼稚園の入園募集結果について
横山福祉保健部子ども政策室担当次長 ～資料に基づき説明～

資料については、会議案27ページから29ページまでとなります。27ページを御覧ください。

平成30年11月1日から11月16日までの期間において募集した結果、福知山、昭和、成仁幼稚園のいずれも3歳児が募集より多く応募があったため、前回の教育委員会会議でお願いさせていただきましたとおり、昭和幼稚園の3歳児クラスを1クラス追加募集す

ることで、改めて募集を出ささせていただきました。
当初の募集期間の結果を受け、昭和幼稚園については抽選を回避する結果とはなりましたが、事前に電話でお伝えするより、12月1日の抽選日に来ていただいて、説明をさせていただいたほうがよいとの判断により、応募者全員に集まっていた中で御説明し、特に混乱もなく、受け入れていただきました。

また、福知山、成仁幼稚園につきましては、12月1日に抽選を行い、抽選外の方に、昭和幼稚園の3歳児募集を追加することをお伝えすることができました。

12月3日から12月7日までの追加募集期間を経まして、(2)にありますとおり、平成31年度園児募集における内容及び結果は、表のとおりとなっております。当初の募集で抽選外となられた福知山幼稚園の3歳児5人のうち4人と成仁幼稚園3歳児2人のうち1人が昭和幼稚園を希望され、その方を含めまして、3歳児7人、4歳児1人の入園希望があり、最終としまして、福知山幼稚園86人、昭和幼稚園99人、成仁幼稚園86人となりましたことを御報告いたします。

28ページにあります福知山市立幼稚園園則第3条を御覧ください。各幼稚園の定員は表のとおりでございます。特に昭和幼稚園につきましては、定員より50人以上の枠がございますので、随時申し込みの対応ができる状態となっております。

簡単でございますが、平成31年度福知山市立幼稚園の入園募集結果について、説明させていただきました。よろしく願いいたします。

端野教育長 このことについて御質問はありますか。

和田委員 抽選に外れた福知山幼稚園の5人のうち4人と成仁幼稚園の2人のうち1人は昭和幼稚園に行かれるということですが、あとの2人は昭和幼稚園への入園を希望されず、聖マリア幼稚園へ行かれるということですか。

横山福祉保健部子ども政策室担当次長

そのとおりです。聖マリア幼稚園にも応募されており、そちらに行かせていただくと聞いております。

ただ、表の福知山と成仁の3歳児の右端のキャンセル待ち欄に、1人と記載があることを見ただけかと思いますが、これは聖マリア幼稚園に行きながらも、福知山幼稚園、成仁幼稚園で、それぞれキャンセル待ちをされている状態で、今後、3月末、また4月以降においても、キャンセルが出た場合は、すぐさま、第一希望の幼稚園に行きたいということで、大変うれしい状態だと思っております。

端野教育長 他に御質問はありますか。

全委員 特になし。

横山福祉保健部子ども政策室担当次長

いろいろと御面倒をおかけし、協議をいただきまして、本当にありがとうございました。昭和幼稚園の方からも、安堵する声がありました。いろいろな課題はあるかと思いますが、今後とも御指導、御鞭撻、よろしく願いいたします。

5 閉会

端野教育長が閉会を宣言。